

南スーダン派遣の自衛隊部隊に「駆けつけ警護」の任務付与 閣議決定に抗議・撤回を求める！

15日の朝7時45分から首相官邸前で、「自衛隊は南スーダンからただちに撤退を！戦争法の発動と『新任務付与』に反対！殺すな！殺されるな！官邸前緊急行動」を「戦争させない！9条を壊すな！総かがり行動実行委員会」が呼びかけ、開催しました。350人が集まり、「南スーダン派遣の自衛隊部隊に『駆けつけ警護』の任務を付与する閣議決定をやめよと、声を上げました。



集会には、日本共産党から4議員が駆け付け、派遣される部隊の地元の青森に住む高橋千鶴子議員が「自衛隊は派遣される隊員の家庭をまわり、安全だと家族に説明して回っているが、家族の不安は増すばかりだ。危険な南スーダンに新たな任務を付与して派遣してならない」と訴えました。民進党の近藤昭一議員、社民党の福島瑞穂議員もあいさつし、「閣議決定するな」「自衛隊を徹底させろ」と訴えました。

最後に福山真劫共同代表が当面のとりくみを提案し、「憲法に書かれている理想を実現しよう。次の衆院選では野党で連帯して安倍政権を追い詰める。勝つまでやろう」と呼びかけました。

「平和守ってきた戦後の歴史一変させるな！」抗議の中、閣議決定強行！

政府は15日の閣議で、南スーダンに派遣する自衛隊部隊に、戦争法に基づいて「駆けつけ警護」の任務を付与する実施計画を決定しました。実施計画では、「PKO5原則」に加え、戦争法に基づいて、国連の関係者などが襲われた場合、救援に向かう「駆けつけ警護」の任務が盛り込まれています。一方で、活動期間中に「PKO5原則」が維持されていたとしても、安全を確保して有意義な活動を実施することが困難な場合は、NSC＝国家安全保障で審議したうえで部隊を撤収するとしてといます。

これに先立ち、政府はNSCの閣僚会議を開き、宿営地が襲撃された場合に他国の部隊とともに守る「宿営地の共同防護」の任務も部隊に付与することを確認しました。

11月20日～12月14日に3回に分けて出発

防衛省統合幕僚監部は10月28日に、南スーダンでの国連平和維持活動（PKO）の次期派遣部隊が、11月20日～12月14日に3回に分けて出発すると発表しています。防衛省によると、次期派遣部隊は現在現地にいる部隊と同じ計約350人。到着後に順次交代。同省関係者によると、派遣されるのは、警備部隊を担当し、新任務に対応する青森駐屯地（青森県）の第5普通科連隊のほか、八戸（同）、岩手（岩手県）、船岡（宮城県）の各駐屯地の施設部隊などの隊員。隊長は第5普通科連隊の田中仁朗（よしろう）連隊長が務めます。

国連のアダマ・ディエン事務総長特別顧問は11日、南スーダンの首都ジュバで記者会見し、同国の内戦について「政治的な対立で始まったものが完全な民族紛争になり得るものへと変質した」と述べ、ジェノサイド（民族大虐殺）に発展する恐れがあると強い懸念を示しました。ディエン氏は「民族間の憎悪が広がり、市民が標的にされるといったジェノサイドの全ての兆候が、南スーダン政府や国際社会に対し早急に防止策を講じるよう求めました。

こんな危険な南スーダンへ「駆けつけ警護」を付与して派遣するのは中止すべきです。閣議決定を撤回すべきです。全国から撤回の声をあげましょう。

憲法会議は15日、抗議・撤回を求める声明を發しました。

【声明】 一発の発砲で取り返しのつかない事態となる—自衛隊に危険な新任務を持たせる閣議決定に抗議し、撤回を求めます

2016年11月15日

憲法会議（憲法改悪阻止各界連絡会議）

1. 安倍内閣は本日、自衛隊が海外で、兵器を手に公然と人を殺傷する＝戦争することができる閣議決定を強行しました。昨年国民の多数の反対世論を無視して制定が強行された安保法制（戦争法）にもとづき、南スーダンPKO（UNMISS）に参加する自衛隊に「駆け付け警護」や「宿営地の共同防護」など武器使用を可能にする新しい任務を持たせるとしています。日本国憲法を最も乱暴にじゅうりんし、戦争違法化・不戦の世界への誓いを否定するもので、第二次世界大戦後71年間、日本が海外で戦争しなかった平和の秩序を自ら突き崩すものです。

兵器の使用を前提にした「駆け付け警護」などは、日本国憲法第9条が禁止している「武力の行使」に他なりません。私たちは、憲法を守り生かし、なによりすべての戦争を拒否する立場から、この重大極まる危険な決定に断固抗議し撤回を求めます。

2. 政府が、新任務をつけた自衛隊を11月20日にも送ろうとしている南スーダンは、政府軍（キール派）と反政府軍（マシャール派）との内戦状態にあります。今年7月にも数百人の死者をだす激しい戦闘が首都ジュバで起き、その際政府軍と国連PKO部隊との交戦もあったこと、政府軍が略奪やレイプを繰り返しているという実態は国連報告書（11月1日発表）や報道で明らかです。イギリスやドイツ、スウェーデンなど各国の文民警察官らも相次いで撤退しています。このように極めて危険な地域であることは全世界の常識となっており、政府がPKO派遣の根拠にしている「PKO参加5原則」は完全に崩壊しています。

こうした南スーダンについて、防衛大臣や首相補佐官の「現地視察」をもとに「ジュバは落ち着いている」などと偽り、「危険性」をことさら過少に見せようとしていることは誰の目にも明らかです。さらに政府の自民党への説明（11月8日）では、「駆け付け警護」は在住の邦人を警護対象にするものであり、他国部隊の警護は現地政府が対応するなどとしており、これまで安倍首相らが、他国のPKO部隊やNGO職員への攻撃に対するものとしてきたこととは異なり、「邦人」を印象づけるものとなっています。このような姑息な手段を弄してまで「新任務ありき」、派兵の実績づくりに固執していることは断じて許せません。

3. これまでも政府は、「専守防衛」として自衛隊の装備増強を続け、「身体防護」を理由とした兵器使用基準の拡大などの恣意的な「憲法解釈」を重ねてきました。今回の閣議決定は、これらとはまったく違う段階に踏み込むもので、「殺し殺される」現実的な危険、「一発の発砲」が人のいのちにとって取り返しのつかない事態をまねくものです。この自衛隊の軍隊化が日米同盟のもと、戦争法の制定とその実行として強行されようとしています。

このような深刻な事態に多くの国民が心を痛めています。

私たちは、自衛隊を南スーダンからただちに撤退させるべきことを政府に求めます。そして閣議決定は撤回し、新任務を持たせた自衛隊の派兵は断じて実行すべきでないことを強く主張します。同時に戦争法は一刻も早く廃止しなければなりません。憲法「改正」反対、暴走を続ける安倍政権の退陣を、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会の共同の力で実現します。

各地のとくみ

院内集会 「“共謀罪”創設法案の国会提出を許さない 法律家団体共同で

開会あいさつで、日本国際法律家協会の新倉修副会長は、「なぜこの時期に出してきたのか。反対派の力を試しているのか。許さないという強い気持ちだ」と話しました。

国会から参加した民進党の真山勇一参院議員は「油断はできない。次期の通常国会に出てくるだろう。新しい法案が出てきたものを見極めて行きたい」と発言。共産党の仁比聡平参院議員は「過去に廃案になった共謀罪と全く変わらないものだ。絶対提出させてはいけない」と話しました。

その後、自由法曹団の加藤健次幹事長が「“共謀罪”創設法案の問題点」として、自由法曹団の「共謀罪に反対する意見書」をもとに報告。加藤氏は、政府が創設の理由として「国際組織犯罪防止条約の批准のため」としているが、条約の趣旨に照らして、批准するために共謀罪の創設が必要だと理屈は成り立たない。また、「オリンピック・パラリンピックが開催されるから」としているが、それらが開催されるから「テロ」の危険性が高まるとは言えないと話し、次期国会に提出させないとりくみを強めようと呼びかけました。

兵庫 ダメ「共謀罪」！ 弁護士会パレード

11月12日、神戸元町商店街西口のきらら広場に100名を超える弁護士さんたちが集まりました。

兵庫県弁護士会長谷部副会長などから「共謀罪」について「過去3回も廃案となった悪法を安倍政権は、戦争法実行のため、またもや国会に出そうとしている」「(刑事罰とは)既遂・未遂など犯罪があって捜査となるが、共謀罪は”(行為を)話し合っただけで”デッチ上げるもの」「(安倍暴走国会なので)、提出されたら有無を言わず通してしまう」「(意見が多々ある弁護士会だが)全員一致で共謀罪は否定した」などなど解りやすく解説のあと、元町商店街を4丁目まで、掛け合いコールやチラシを配りながら行進しました。

コール内容は「テロ防止理由に、話しあい、監視するな」「電話を盗聴するな、私たちの日常を監視するな」「憲法21条を守れ、監視社会を、許すな」「メールやLINEを勝手に見るな」などでした。
(憲法改悪ストップ兵庫県共同センター週刊ニュースNO.580より)

東京日野 自衛隊を南スーダンに送るな！閣議決定中止を！6時間余の宣伝

15日の閣議決定を前にした12、13日の土日、「戦争はいやだ！平和憲法守ろう！日野の会」は、宣伝カーを市内に回し、「自衛隊を南スーダンに送るな」「憲法違反の閣議決定は中止させよう」「くらしと平和のために憲法をいかに政治を実現しよう」と、6時間余の宣伝を行いました。のべ9人が参加しました。手を振って激励してくれる方もいて、励まされました(写真は宣伝の様子)。15日の閣議決定に抗議し、自衛隊の南スーダン派兵ストップを呼びかける同日の午後5時～6時「日野の会」3駅宣伝に多くの方の参加を呼びかけます。

また、「戦争はいやだ！平和憲法守ろう！日野の会・ピースフェス

15日のピースフェスティバルの賛同を広げる取り組みを、日野の



局に届いた賛同書は70数人分で、名簿に打ち込んだ方は約500人となりました。
(日野の会メール・土日の速報より)

明日17日9時から、衆議院憲法審査会 総がかり行動実行委員会として傍聴します。傍聴希望者は16日16時までに憲法会議へご連絡を(8時40分衆議院議員面会所集合)